

4-(1)-⑱ 教育力向上の取り組みの概要

区分	機能
第1回 学内研修会	<p>平成24年5月 「カリキュラムマップとシラバス作成について」 講師：沖 裕貴 立命館大学 教授 目的：ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく、科目の教育目標や到達目標、成績評価について理解し、今後のカリキュラム策定に生かす。 参加者：約150名</p>
第2回 学内研修会	<p>平成24年8月 「各学科カリキュラムマップの細部検討」 目的：ディプロマポリシーによる人材育成と科目受講者の到達目標、身に付けさせる能力要素の確認。それらを身に着けさせるための手法、教授法などの今後の理解・研究について全学的な共有化を図る。 参加者：25名</p>
第3回 学内研修会 初年次教育報告会	<p>平成24年10月 「教養ゼミナール(ワークショップクラスと農芸クラス)成果と課題の検討会、来年度の運営について」 目的：新入生対象の「教養ゼミナール」の、今年度の各クラス活動内容と成果を確認、共有し、次年度への課題確認、改善策の検討、方針を確認する。 参加者：32名</p>
第4回 学内研修会	<p>平成24年11月 2013年度新カリキュラムの実施と質保証について 目的：新年度カリキュラムにおける各学科の人材育成の方針、方策とそれらを達成するための科目配置や身に着けさせる能力要素について、共有化と相互理解を図る。 参加数：約140名</p>
第5回 学内研修会	<p>平成24年11月 「学生の意欲を引き出す『学習学』」 講師：本間正人 京都造形芸術大学教授 目的：現代の学生気質の理解と、授業で学生の学習意欲を引き出すための授業運営や働きかけについて学ぶ。 参加数：約100名</p>
第6回 学内研修会	<p>平成25年1月 「成績評価の厳格化—特にレポート試験について—」 目的：レポートと試験の評価基準はどうあるべきか協議し、評価の厳格化、適正化、指導の在り方・体制づくりについてグループディスカッションなど行う。 参加数：約40名</p>

<p>授業評価アンケート</p>	<p>平成24年度、前期授業評価アンケートを実施 教養や教職課程の科目を始め、各学科の講義を対象に実施されました。実施された521科目は、前期の学部の総授業科目数625科目の84.0%であり、前期の全科目の学部の総受講者数(全受講者の延べ人数)21,030人のうち、本アンケートの対象となった受講者は延べ人数で18,957人(90.1%)となりました。</p> <p>平成24年度、後期授業評価アンケート実施 教養や教職課程の科目を始め、各学科の講義を対象に実施されました。実施された463科目は、後期の学部の総授業科目数559科目の74.6%であり、後期の全科目の学部の総受講者数(全受講者の延べ人数)17,757人のうち、本アンケートの対象となった受講者は延べ人数で15,902人(89.6%)となりました。</p>
<p>学修・生活アンケート</p>	<p>平成25年1月、学修・生活アンケートを実施 本学に在籍する学生の、学生としての意識、生活状況等を知ることによって、教育内容の改善を図るためにアンケートを実施しました。</p> <p>◆調査方法 本学生専用の授業等運用のためのサイトNETBUSでの回答システムを活用し、1,603名(1年生522名、2年生413名、3年生373名、4年生295名) 全学生の75%の回答を得ました。</p>
<p>TA(ティーチング・アシスタント)の活用</p>	<p>平成24年度 TA実施学部科目数102科目(述べ数) TA実数:66名任用</p>
<p>FDネットワークつばさ</p>	<p>関東以北の大学で組織するFDネットワーク“つばさ”に参加し、授業改善、カリキュラム・教育制度改革などについて連携しています。</p>
<p>教務事務の改善</p>	<p>宮城県地区私立大学教務事務研究協議会(14大学・短大で組織)に参加し、カリキュラム・学生支援・関係法令改正対応などについて、教務、学生支援、進路支援等を担当する職員が毎年定期的に研究協議を重ねています。</p>